

公園内で見られる植物

写真は12月3日(土)
自然観察会で見られた
植物です



ウリカエデの種 (ムクロジ科)

ヒラヒラとどこかに飛んでいきそうな羽根の形をしていますね。茶色になると何か、もの悲しい感じがしますね。晩秋の色ですね。



ヤマウルシの種 (ウルシ科)

種の外側の皮は黄褐色ですが、それが剥がれると縦に筋のある白いロウ質の果皮が現れます。その中に、核と呼ばれる小さな黄褐色の種があります。



ハゼノキの紅葉 (ウルシ科)

まだ、きれいに色づいているので思わず手を伸ばしそうになりますが、葉っぱがたくさん付いている(羽状複葉)木は知っているもの以外触らないのが一番です。特に山にはウルシ科に属するものがたくさん生えています。背の低い木で、上から見て葉柄が放射状に出ているものは要注意。



ウリカエデの黄葉（ムクロジ科）

黄色に紅葉が、美しいですね。ウリカエデの黄葉（紅葉）は、葉緑素（クロロフィル）が分解され葉から次第に緑色が消えて黄色の色素（カロチノイド）が分解されずに残っている為です。



ヤブムラサキの実（クマツヅラ科）

ムラサキシキブの実とよく似ていますが、実が萼片に包まれているのと、実の大きさが少し大きいのでヤブムラサキだとわかります。森の中で紫色は貴重ですね。



タニウツギの種が落ちたあとのサヤ (スイカズラ科)

田植えの時期に咲き始めるピンク色のかわいらしい花から想像できませんが、意外とサヤがしっかりして枝に残っているのです。リースの材料として使っています。緑の色の中には映えますよ。



トリガタハンショウヅルの実 (キンポウゲ科)

タンポポの綿毛のような実。名前の由来は、花の形が鐘の形に似ているツル植物であることから付いたようですが、種も鳥の羽のような形ですね。



サルトリイバラの実 (ユリ科)

リースの材料に最高なのが、この赤い実のサルトリイバラ (別名：かたらの葉、かしわもちの葉) です。緑のヒノキの葉の中に赤い実はひととき鮮やかに映えます。



スダジイのテング巣病 (ブナ科)

テングス病と言えば桜の木の病気のイメージが強いのですが、原因はさび病菌の一種だったり、モチ病菌の一種だったり、マイコプラズマ様微生物等、様々のようです。ヤドリギのようにも見えますが、黒々としているので病気です。退治するには病枝の付け根から切るしかないようです。